

体育と保健の ひろば

CONTENTS

特別企画1



あの人この話

はるな愛さんの 愛のある言葉

タレント・歌手 はるな愛 … 2～4

特別企画2



教育のいまを知る

ヘルスリテラシーと保健の「見方・考え方」を手掛かりに これからの小学校の保健を展望する

茨城大学・上地勝 … 5～7

連載

教育NOW！

- ・小学校 佐賀県 元気である理由—若手も、中堅も、ベテランも … 8～9
- ・中学校 山形県 学習カードの活用から考える授業改善 … 10～11

「小さじ一杯の工夫」で授業が変わる！

子どもが変わる！ 鎌倉女子大学・藤原昌太 … 12

ロンドン便り 時事通信・青木貴紀 … 7



--	--	--	--	--	--	--	--



はるな愛さんの

愛のある言葉

——それが、ある日を境にいじめられなくなったと。
きっかけはなんだったのですか？

きっかけは、中学2年生のときにニューハーフのお姉さんと出会ったことです。親が夜の飲食店を経営していて、私もお手伝いをしていたんですけど、そのお店のお客さんが「たぶんケンちゃんと同じような人たちがいるから一緒に行こう」とニューハーフさんのお店に連れて行ってくれたんです。私はニューハーフになりたいんじゃなくて、女の子になりたかった。だからあまり気は進まなかったんですけど（笑）。

お店のステージで、ニューハーフの人たちがドレスを着て歌ったり踊ったりして輝いている姿を見ました。そのお姉さんたちと話してみると、私の性の悩みを認めて、受け入れてくれるんですよ。まさに自分の居場所を見つけた思いがしました。不思議なもので、その次の日ぐらいから、いじめられなくなりました。

あの頃の私は、自分の本当の性を隠して、大きな不安を抱えながら自分の居場所を探しに学校に行っていました。たぶんいじめっ子も、私をいめることで自分の強さを示し、居場所を確保しようとしていた。「俺はあいつをいじめられるぐらい強いんだぞ」と。いまになって思うと、自分より弱い人間をいめることでしか、自分の居場所を見つけられない、哀しくて弱い子だったんですよ。

だから、私に居場所ができて自分に自信が持てたら、内面の変化が相手にも伝わるんでしょうね。ぱったりといじめがなくなりました。

——居場所ができたときの気持ちの変化は？

学校の外に自分の居場所を見つけられたことは、大きな驚きと安心感がありました。それから放課後は、お店に行き、ドレスに着替えてメイクして、自分らしく生き生きできる場所があるというのはとても大きかったです。

——いじめの相談ができる友達はいなかったんですか。

小学生のときは、女の子の友達が多かったのですが、母から「男らしくしなさい」と言われて、彼女たちとの関係も断ち切ってしまったんです。大人になって出演したテレビ番組で、そのときの友達が出てくれて当時を振り返って、「ケンちゃんが別人のようになってしまって、私たちと全然しゃべってくれなくなったとき、とてもさみしかったんだよ」と言ってくれました。私だって彼女たちとずっと仲良くしたかったけど、変わらないといじめられるという思いがあった。でも、もし自分を変える必要がなかったら、私を受け入れてくれる彼女たちとずっと仲良くできる環境が続い

——中学生の頃に性の悩みを抱えるようになって、いじめにも遭われたそうですね。

小さい頃から女の子の服を好んで着ていました。それでも小学生の頃は、幼稚園から上がってきた友達と一緒に仲良く過ごしていました。

中学校は小学校よりも学区が広がるからでしょうか、中学生になったとき、母から「男らしくしないといじめられる」と言われて、詰襟の学ランで登校しました。でも本当は、セーラー服を着たかったんです。

ポケットに手を突っ込んでガニ股で歩いて男っぽくしていましたが、すぐにいじめられるようになりました。叩かれたり蹴られたり、休み時間に掃除用工具箱に閉じ込められたりして、かなりつらかった。

——周囲の人は助けてくれなかったのですか。

周りの人は、関わったら自分もいじめられると思うんですよ。私も、小学校でいじめられる子がいたときに、やっぱり止められなくて、その気持ちもよくわかっていたので友達に助けを求めることができませんでした。

いじめられている側は、いじめられていないフリをしたい。いじめめる側はそれを見て、もっといじめてやろうってなるんですね。いじめがエスカレートする中で、幹線道路沿いの歩道橋の上で、人生を終えようと思い詰めたことは何度もあります。

ていたら、もっとちがった中学校生活になっていたと思います。

——これからの学校に、期待することはありますか？

いま、学校の制服も女子がスラックスを選べるようになるなど、見直しが進んでいます。でも、まだ選択肢が限られていると思います。服装の好みは一人ひとりちがって当たり前ですので、もっと選択肢が増えていい。スラックスだけでなく、ネクタイやリボンなどのパーツやジャケット、コート、マフラーも自由に選べるようになるといいですね。

学校は、先生が教育をしやすくするために、たとえば制服なら男女の区別が一目でわかる服が重視されてきました。あるいは、校則のような基準を作って、基準の範囲に収まるように子どもを育てようとしていたところがあったと思います。子どもたちは、この大人の目線の高さに自分を合わせていけなかった。でも、私がそうであったように、なかなか自分を合わせられない子もいるんですね。その枠に収まりきれず、生きづらさを感じ、居場所を見つけれない子どもにとって、学校がとても苦しい環境になっているんです。

教師は、人と向き合うお仕事です。学校の先生は忙しいと言われていますが、子どもと向き合うことが先生の最も大事な仕事だと思います。一人ひとりの子どもたちの個性にしっかりと向き合ってくれたら、多くの子どもたちが夢や希望をもって、これから先の長い人生を自分らしく幸せに歩んでいけるとと思います。制服の在り方に見るように、学校もいま過渡期にあります。その変化がどうして必要なのか、というところにしっかりと目を向けて、これからも変わってほしいですね。

——学校の先生に「こんなことを子どもに教えて欲しい」ということがあれば。

同じ言葉を使っても、その言葉に傷つく人もいるし傷つかない人もいます。また、同じ相手でもその日によって感じ方や受け取り方がちがう、ということを伝えてほしいです。

「男らしい人」「強い人」「女らしい人」「弱い人」という言い方をすることがあります。「あの人は強くて男らしい人だ」と、レッテルを貼るように。でも、人間には誰しも両面があって、「強くて男らしい」と思われている人だって、ときには自分に自信が持てずに、早く家に帰って一人になりたい、と思う日もある。

だから、「正解は一つではない」ということを伝えてほしい。クラスに30人の子どもたちがいたら、30通りの考え方や価値観があって、一つの考えにしばられない多様な価値観を育んでほしいと思います。子どもたちが集団で生活する学校は、それを学ぶ格好の場所ですね。

——LGBTという言葉が社会に浸透してきました。

LGBTという言葉が広がったことで、性的少数者への理解が進んだ反面、そこに無理やりあてはめられて苦しい思いをしている人もいます。

例えば、私たちの仲間に、トランスジェンダーの女性で、女性を愛するレズビアンがいるように、性自認と性的志向が複雑に絡み合う人もいて、性のあり方は実際には多様なのです。私の場合も、「はるなはトランスジェンダーなんだから、そんな表現をしないでくれ」と言われることがあります。私はトランスジェンダーかもしれない、でも「大西賢示」という本名もとても大切にしているんです。賢示という男性名で生きること、女性として生きること、そのどちらも大切にしているのが私という人間なんです。LGBTにQを加えて、LGBTQと呼ぶこともありますが、大切なのはカテゴライズすることではなく、その人を理解すること。やっぱり、みんなちがう人間なんですよね。だから、LGBTという言葉で区分されない社会になるといいなって思いますよね。

——タレント活動をされている中で、「大西賢示」という本名を隠すことなく使われています。

元々、この本名への強いコンプレックスがあったんです。女になりたいという思いがあったので。社会に出て、飲食店を営み始めた頃、コンプレックスから自分のことをお客さんに深く話せない時期がありました。でも、一人でも多くの人にお店に来て欲しい……。そのときに気がつきました。コンプレックスであるはずの「大西賢示」という名前が、実は私のかけがえのない個性だと。そのことに気づいて、自分自身にしっかりと向き合えたときに、お店にお客さんがたくさん来てくれるようになりました。人とのつながりが広がって、心から信頼できる友人もできました。

人は、他人と比べて異なる部分にコンプレックスを持ちがちです。その人とちがう部分が大事な個性であることに気づくことで、人として前に進めることを知りました。ですから、私は「はるな愛」として活動していますが、同時に「大西賢示」という本名も大切にしています。

——15歳のときに、お父さんにカミングアウトされています。

私の父は、とても厳しい人でした。野球が好きで、私にも野球をやらせたくて夕方や週末はよくキャッチボールをしていました。「こら～、オカマ投げするな」って怒鳴られながら(笑)。その父にカミングアウトしたのは高校生のとき。家庭の厳しい経済状況の中で、私立高校に通わせてくれている父に、もうこれ以上隠し通すことはできない、本当のことを打ち明けようと決心しました。すぐに手が出る人だったので、周りの人の目のあるファミリーレストランで父と向かい合いました。「これからは女として生きていきたい」って切り出したら、沈黙した後でこう言ったんです。

育んでほしいと思います。

多様な価値観を

一つの考えにしばられない





でも、みんな一緒にがもつといい
みんなちがって、みんないい

「わかった。その代わり、後悔する生き方はするな。男だったらとことんやれ！」

女になるっていう話をしているのに、「男だったら」って返すのが、本当に父らしい。「わかった」という言葉もうれしかった。いまでも父は私のことを賢示と呼びますが、私の生き方をよく理解してくれています。

——お母さんとのご関係は、いかがでしたか。

うちの両親は離婚して、母は再婚しています。その母の再婚先の家に泊まりに行ったことがありました。そのとき私は、「賢示」として男らしく振舞おうとしていたのですが、いたたまれなくなって、泊まらずに帰ろうとしました。すると母が「泊まっていきなさい。お風呂わいているから入っていき」って。お風呂から上がったらピンクのクマのパジャマを用意してくれていました。母が私の生き方に寄り添ってくれたことがわかり、とてもうれしかったです。それからは、母の前でも自分らしく過ごせるようになりました。

——学校で子どもがカミングアウトしたときに、教師にはどんな配慮が必要でしょうか。

カミングアウトされたら、先生だって驚くと思います。でも、相手を大切に思う気持ちがあれば、疑問に思うことを素直に聞いてみるというでしょう。「こう答えたらいい」とか、「この言葉を使ってはいけない」といったマニュアルはなく、無関心な態度や否定的な姿勢があると、相手は心を閉ざします。「そうだったんだね」「どうなりたいの？」と、相手を理解するための質問を試みたらいい。その子にしっかりと向き合う気持ちと姿勢を持てるかどうかが最も重要です。

——2021年には、東京パラリンピックの開会式に登場され、ダンスパフォーマンスを披露されました。

最高の経験でした。目が見えない人、耳が聞こえない人、指の欠損がある人、車いすの人、義足の人など、多様な個性を持つ人がいて、みんなで相手の足りないところを補い合っていく。例えば、耳が聞こえない人がいれば、彼女に私たちが合わせて試行錯

誤し、最善策を見つけていくんです。

仲の良かった友達に、低身長ジェーンちゃんがいきました。楽屋で準備をしているときに、スケジュール表が貼り出されたことがあって、ジェーンちゃんは椅子の上に乗って見ているんですね。「気づかなくてごめんね！」とスケジュール表を下げて貼り直しました。このようにサポートし合うことが当たり前の関係で、さらに自分の弱みを自然とさらけ出せる雰囲気があって、とても居心地のいい環境でした。学校がそのような環境になると、とても素敵ですね。

開会式の本番直前のことが忘れられません。演出家の方が「みんなちがって、みんないい、ということの世界に届けてください」と。その言葉に気持ちを高めているとき、横にいたジェーンちゃんがこう言いました。

「みんなちがって、みんないい。でも、みんな一緒にがもつといい」

その言葉がとても胸に響いたんです。みんなそれぞれちがいはあるけど、人とつながることも大切ですよ。

——はるなさんのお店では、子ども食堂も主宰されているそうですね。

社会活動家の湯浅誠さんから子どもの貧困についてお話を伺ったことがきっかけです。私自身、大阪の市営団地で育ち、電気やガスが止められることも少なくなかった。そんな中でも、母がツナ缶と白菜で作った温かいご飯を食べるだけで気持ちが豊かになりました。それで、飲食店を営んでいるので少しでも貢献できないかと思って始めました。

最初にお店のスタッフに相談したときは、積極的ではなかったのですが、いまでは進んで取り組んでくれています。みんなで一緒にご飯を食べると、そこでつながりができる、居場所ができるんですね。お店の普段の営業とはまったくちがって、そこにとてもやりがいを感じているようです。

——最後に、いじめにあっていない子に伝えたいことはありますか。

私がそうであったように、あなたにもきっと居場所がある。学校にその場所がなければ、学校の外に居場所がある。そこであなたを受け入れてくれる人がいる。大人になったらもっと広い世界がある。だから絶対に生きて欲しい。その居場所にたどり着いて、自分らしく生きて欲しい、と伝えたいです。

また、いじめている子にも言いたい。人を傷つけることでしか居場所を見つけれない、という自分の弱さに気づいて欲しい。それは強いことでもかっこいいことでもないんだよ、と。私は、一度きりの人生なので、後悔しないように、自分らしく生きる道を選びました。時間が経っても、いずれ両親が理解してくれるという思いもありました。両親が理解してくれたように、もしあなたの近くにそのような友達がいたら、しっかりと理解してあげてください。



タレント・歌手 はるな愛

1972年7月21日生まれ、大阪府出身。アイドル松浦亜弥のものまね“エアあや”でブレイク。以後バラエティ番組に多数出演。「ミスインターナショナルクイーン2009」で世界第1位となる。タレント活動をしなが、性の多様性やいじめ、子どもの貧困などに関わる社会貢献活動にも取り組んでいる。





ヘルスリテラシーと保健の「見方・考え方」を手掛かりに

これからの小学校の保健を展望する

茨城大学教授 上地勝

1. 事実（手続き）的知識と概念的知識

いきなりで恐縮ですが、以下の交通安全に関する問題を解いてみてください。

問題 横断歩道をわたるとき、最も適切だと思うものを次の4つの中から1つ選んでください。

- ① 急いで横断歩道をわたることが大切です
- ② 手をあげて横断歩道をわたることが大切です
- ③ 車がきていないか、確認することが大切です
- ④ 右、左、右の順番で見るのが大切です

正答が「3」ということは、すぐに理解できるかと思えます。それでは、その理由については説明できるでしょうか。どの選択肢も間違ったことを述べているわけではありません。しかし、4つの選択肢を比較して「最も適切だと思うもの」を選ぼうとすると、自ずと正答が浮かび上がってきます。それでは、正答の「3」と、正答ではないそれ以外の選択肢とは何が異なるのでしょうか。横断歩道をわたる際（というよりも全ての行為において）、安全の確認は必須であり、全体に共通する概念です。選択肢「1」と「2」は安全を確認しているわけではなく、安全確認を前提条件として、横断歩道をわたる際の手続きを述べています。「4」は正答に近そうですが、安全確認の大切さではなく、あくまでも見る順番の大切さを述べています。正答である「3」は安全確認をする行為そのものです。

子どもたちの発達段階に合わせて、これらのような手続き知識を踏まえながら教授していくことは重要ですが、手続きを覚えさせる事だけに終始してしまい、その理由や、それら手続きに共通する概念の理解につなげることができなければ、「生きて働く知識・技能」にはなりません。蛇足になりますが、事実（手続き）的知識は役立たないもので、概念的知識を教授すれば良いというわけではありません。事実（手続き）的知識は具体的であり、子ども達が認識しやすい、あるいは実行しやすいものです。重要なことは、子ども達が事実（手続き）的知識を、経験などを通して積み重ねていながら、自らそれらに通底する概念を構成し、身に付けていくプロセスです。こうして身に付けた知識こそが「生きて働く、汎用性のある概念的知識」となります。

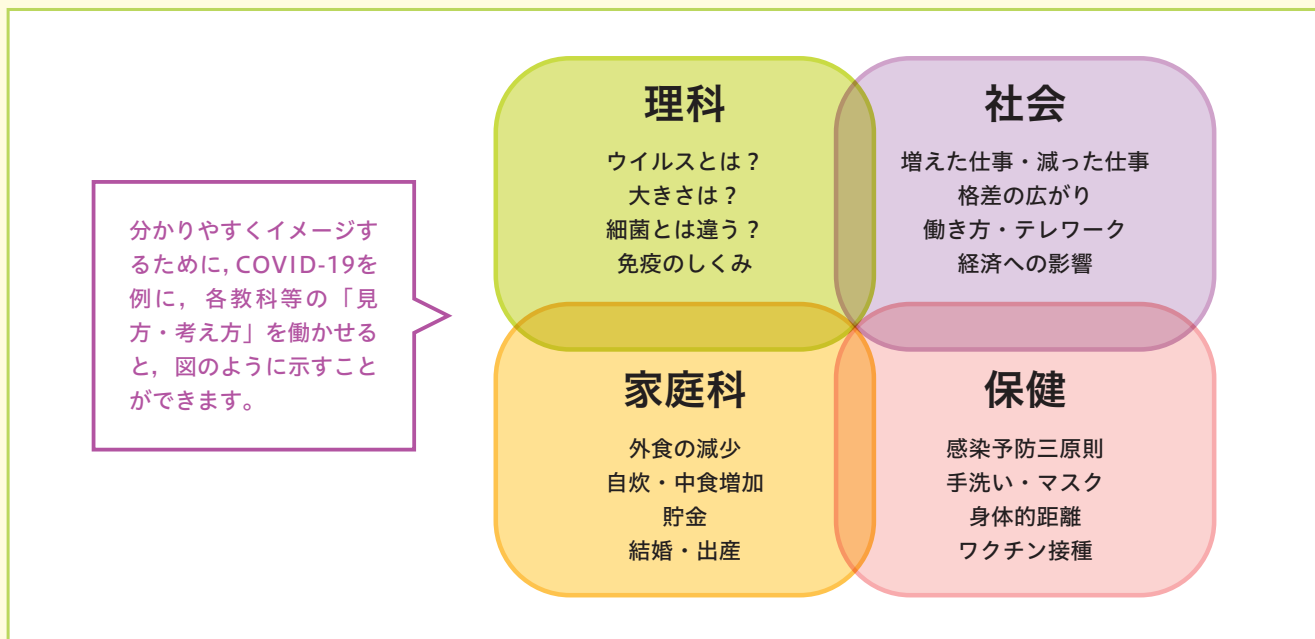
2. 保健の見方・考え方

小学校学習指導要領では、見方・考え方を「各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方」と定義し、解説総則

編¹⁾では、次のように整理しています。

深い学びの鍵として「見方・考え方」を働かせることが重要になる。各教科等の「見方・考え方」は、「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか」というその教科等ならではの物事を捉える視点や考え方である。各教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなすものであり、教科等の学習と社会をつなぐものであることから、児童生徒が学習や人生において「見方・考え方」を自在に働かせることができるようにすることにこそ、教師の専門性が発揮されることが求められる。（一部著者改変）

図1 各教科等の「見方・考え方」を働かせる



このように、各教科等の「見方・考え方」を働かせることによって、COVID-19が保健だけでは捉えられない様々な特性や課題を持つこと、社会に大きな影響を及ぼしていることなどを、より深くかつ具体的に認識できるようになります。また、保健で扱わなければならない内容が、より明確になることが分かります。ただし、各教科等で扱うのみでは、得ら

れた知識はそれぞれ分散したままなので、特に小学生の段階ではそれらを統合する機会を意識的に作り出す必要があります。例えば、特別活動などを通して行ってもよいでしょう。これもまた、先述した概念的知識を構築するプロセスと言えます。

3. これからの保健教育

保健教育の目的として、「子どもたちのヘルスリテラシーの向上を通して、現在および生涯にわたり健康の保持増進に寄与する」ことが挙げられます²⁾。

ヘルスリテラシーについては、2000年代に入ってから一気に研究が進んできましたが、昨今のコロナパンデミックおよびICTの発達普及を受け、ますます注目されるようになってきました。ヘルスリテラシーには様々な定義がありますが、概ね「健康情報を入手し、理解し、評価し、活用するための能力」とされています³⁾⁴⁾。

学習指導要領の改訂に必要なデータ等を得るために、平成25年度に実施された「学習指導要領実施状況調査報告書」の教科保健の結果からは、小学校では「図を読み取り健康情報を分析すること」、中学校では「健康に関する抽象的な内容を具体的な事象に適用したり応用したりすること」に課題があることが指摘されています。これらをヘルスリテラシーの定義に沿って解釈すると、小学校では「健康情報を理解し、評価すること」、中学校では「入手した健康情報を活用すること」に課題があることがうかがえます。これらの課題をクリアしていくには、どのような手立てが必要でしょう

か。実は、小学校学習指導要領（平成29年告示）総則第一「小学校教育の基本と教育課程の役割」の2(3)に、その手立ての一つが示されています。略筆すると「(略)安全に関する指導及び心身の健康の保持増進に関する指導については、各教科等の特質に応じて適切に行うよう努めること。(略)日常生活において適切な体育・健康に関する活動の実践を促し、生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための基礎が培われるよう配慮すること」とされています。

もう少し具体的に考えてみると、教科保健では主に健康・安全に関する原則や概念の理解のために授業を構成し、その実践・活用のもととして、特別活動や課外活動、日常生活などを利用することで、総体的に保健教育を進めていくということです。これは取り立てて新しいことではなく、多かれ少なかれ、これまでも行われてきたことです。ただし、このような理論と実践の結びつきを一方向や一回限りではなく、何度も繰り返して行き来すること、つまり往還することと、それらを意識的に実施していくことが重要です。理論と実践の往還を実現し、ヘルスリテラシーの育成につなげるには表1の3点が重要になると考えられます⁵⁾。

表1 ヘルスリテラシーを育成する3つの視点

- 子どもたちが目的を持って、かつ意識的に繰り返し実践できるような働きかけること
- 実践の際に「意思決定・行動選択」をする場面を設けられるようにすること
- 情報（根拠）に基づいた意思決定・行動選択ができるようにすること。その際、情報の確認の仕方について事前に学んでおくこと

3点目の「情報（根拠）に基づいた意思決定・行動選択」については、発達段階を考慮しつつ、教科を越えて早い段階から学ぶ必要がある。

4. まとめにかえて

最後に、先生方が理想とする学びの姿は何でしょうか。個人的には「interest-driven learning(興味に導かれる(駆り立てられる)学び)」という言葉に集約されると考えています。興味・関心があれば、人は誰に指示されることなく自発的に学びます。学ぶための手段として、現在はインターネットを始めとする様々なメディアから多くの知識や情報を得ることが可能です。教師の役割は、従来のような教育内容を教授し伝達する立場から、子どもたちの興味・関心に火をつ

け、潜在能力を引き出し、望ましい方向へと導くファシリテーターやガイドとしての立場へと変化しています。

変化が著しい時代ですが、そうした変化に対応しつつも、本質を見極めて、子どもたちの成長に結びつく保健教育を展開していきましょう。

- 1) 文部科学省、小学校学習指導要領（平成29年告示）解説、総則編、p4、2017.
- 2) 今村修、他編、保健科教育学の探究－研究の基礎と方法－、大修館書店、2020.
- 3) Sørensen K., et al. BMC Public Health, 12(80), 2012.
- 4) 中山和弘、日本健康教育学会誌、30(2)、172-180、2022.
- 5) 上地勝、初等教育資料、1029、76-79、2023.

ロンドン便り



11万人超が熱狂する年末年始の大ジャンプ

時事通信社ロンドン支局特派員 青木貴紀

毎年、正月三が日はどのように過ごしているだろうか。1月2、3日は箱根駅伝を沿道やテレビで観戦する人も多いかもしれない。数々のドラマを生む白熱のレースは、関東地区の世帯平均視聴率30%に迫る大人気のスポーツイベントだ。

ドイツやオーストリアにも年末年始の風物詩となっているスポーツがある。ノルディックスキー・ジャンプ男子の「4（フォー）ヒルズトーナメント」。1953年に始まった伝統大会で、ワールドカップ（W杯）より歴史が深く、日本では「ジャンプ週間」と呼ばれている。

ドイツのオーベルストドルフとガルミッシュパルテンキルヘン、オーストリアのインスブルックとビショフスホーフェンの4会場を転戦し、総合優勝は4戦計8回の飛躍の合計得点で争う。日本勢は1997～98年に船木和喜、2018～19年に21～22年に小林陵侑が総合優勝を果たした。

新型コロナウイルスの影響で、20～21年から2季続けて無観客開催となったが、今季は通常に戻った。待ち焦がれたファンが詰め掛け、第1戦の予選から1万6000人の大観衆。翌日の本戦は2万5500人が観客席を埋め尽くした。4大会の観客動員数は計11万人を超えた。

観客は親子連れ、若いカップル、老夫婦などさまざま。大人はビールを片手に、

大ジャンプに歓声を上げた。ドイツ人の女性は「幼い頃からテレビで見ていた。今季は特に盛り上がっているように感じる」と語り、熱気あふれる会場をうれしそうに見回した。

近年は気候変動による地球温暖化の影響で、雪不足に悩まされている。今季は4会場ともほとんど自然の雪が積もらず、人工雪を使ってジャンプ台を整備した。男性スタッフは「年々、冬の気温が上がっていて今季は特に異常だ。近い将来、大会を開催できなくなってしまうかもしれない」と心配そうに話した。

トップレベルの選手は時速90キロ前後のスピードで踏み切り台から飛び出し、飛距離は約140メートルに達する。日本でも札幌や山形・蔵王でW杯が開催されるので、「鳥人」たちの美しい飛躍をぜひ一度、会場で見たい。



大勢の観客が詰め掛けたジャンプ週間第3戦 23年1月、オーストリアのインスブルック





元気でいる理由

～若手も、中堅も、ベテランも～

佐賀県

佐賀県
体育学習研究会

研究委員長 田中 孝

はじめに

私たちは佐賀県体育学習研究会です。現在、小学校の教員を中心に、子ども達の豊かなスポーツライフの実現に向けた体育学習の在り方について、教員歴の浅い若手から、中堅、ベテランに至るまで、切磋琢磨しながら実践を積み重ねています。そんな我々が令和4年度の12月に臨んだのが、全国体育学習研究大会佐賀大会です。その時に参観された全国の先生方からは、「チーム佐賀のすばらしさを感じました」「一枚岩って感じですね」など、組織としての姿を評価していただきました。手前みそではありますが、私たちの組織（教職員）はとても元気です。今回は我々の元気の源を紹介させていただきます。

① Withコロナの中で保ち続けた「つながり」

一つ目は「つながり」です。コロナ禍となり、対面での授業研究会が難しくなりました。そんな中我々は、4年前からいち早くオンラインでの学習会に切り替え、会員であればアカウントをいつでも共有することで「つながり」を維持し、互いに学び続けることのできる環境をつくりました。オンラインを取り入れることは、対面で集まれない中でも授業実践について会員間で交流を深めることができ、「コロナ禍であってもやっていけるんだ!」という自信になりました。



オンライン会議での1幕

また、オンラインを取り入れることで様々なメリットも生まれました。例えば、体育学習に興味をもっている人がお試して学習会に参加したり、地域や県に関係なくたくさんの先生方との交流をもったりすることができ、組織を活性化することにつながりました。

② 明確な探求目標の共有

「コト・ヒト・モノ」の授業デザインと
「子どもの自己評価」を取り入れた佐賀モデルの構築

二つ目は、会員間で「明確な探求目標」を共有しながら、授業実践を積み重ねることができたことです。具体的には「佐賀モデル」という授業モデルを構築し、佐賀県内外へ発信していくというものです。

この「佐賀モデル」には二つの柱があります。一つ目の柱は資料1に示している通り、「コト・ヒト・モノ」(木村ら, 2022) という3点で授業設計を行っていくことです。この授業設計を取り入れることの良さとして、「何をめぐって学んでいくか」ということがシンプルに整理することができ、体育を勉強し始めた人でも単元づくりを理解しやすい

〈授業と系統の考え方〉

小学校低学年→中学年→高学年→中学校→高等学校

コト(本質的遊びとしてのデキゴト)



資料1 コト・ヒト・モノの授業デザイン(木村ら, 2022)



佐賀県体育学習会所属メンバーの集合写真

くなる点にあります。

二つ目の柱は評価についてです。実際に体育の評価をどのように見取っていったらよいのか、悩まれている先生方も多いのではないのでしょうか。評価行為について見つめ直すことは、指導や支援の在り方を明確にしていく上で極めて重要です。そこで我々は、学習者自身の評価力・調整力を高めていくことを切っ掛けに、評価の在り方について検討を重ねてきました（久保ら、2021）。

この「佐賀モデル」の構築に向けて、ここ数年二つの柱を意識しながら会員が授業実践を行い、議論を積み重ねてきました。その中で、単元の評価について考えていく中で、学級の中で子どもが自分たちの学びを振り返る「学びのハーフタイム」という時間を導入してはどうかというように、会員の意見を擦り合わせながら「佐賀モデル」は更新し続けていきました。

組織の活性化という点で考えると「佐賀モデル」を創り上げる過程に、「自分も関わる事ができた」という実感を会員が持つことができたことは貴重な経験になりました。それは教師が受け身にならず、常にプレーヤーとして探究し続けることができたからです。

なお佐賀モデルについては、紙面の都合上十分に説明することができませんでしたので、興味のある方は佐賀県体育学習研究会のHPにアクセスいただくと幸いです（QRコード参照）。



おわりに

みなさんは、『弱いつながり 検索ワードを探す旅』（東、2014）という本をご存じですか。その中で、人とのつながりが「村人」「旅人」「観光客」という三つに整理されています。閉鎖的なコミュニティの中でつながる「村人」、自分の属するコミュニティはなく、いろんな所とつながりをもつ「旅人」、そして自分の所属するコミュニティをもちながら、目的によってコミュニティとつながる「観光客」の三つです。

この本の整理によると、我々のつながり方は、「観光客」なのでしょう。先生方が互いに目的をもって、多様なつながりの中で主体的に研鑽を深めていくことができているからこそ組織が元気でいられるのだと考えます。この紙面を皮切りにまた新たな人とのつながりが生まれることを願って結びとします。

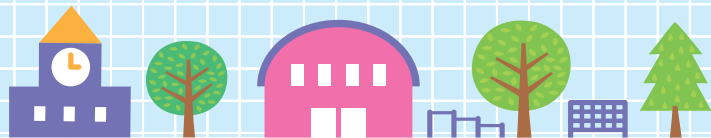
③ 「次は僕が…」発信する場があるからこそその意欲の保証

元気の源の三つ目は、自分たちの取り組んできた授業実践について多方面で発信する機会が保証されていることです。県内の学習会で、授業実践を報告する機会を多く設けるようにしています。さらにオンラインを媒介とすることで、県外の先生方とも交流をもつことができるようになりました。

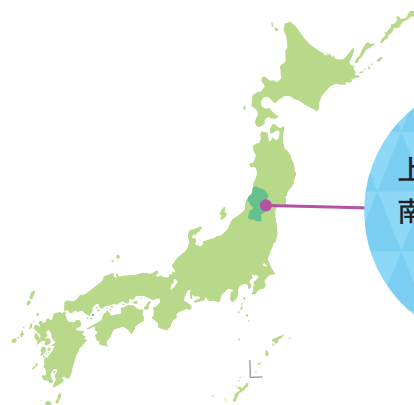
実践発表は、ともすれば億劫になりがちです。しかし、県内外を問わず様々な方から意見をいただけることができると、前述した通り自分の取り組みが「佐賀モデル」を構築することにつながるということが、モチベーションの維持につながっているようです。また発表者だけに任せるのではなく、発表に至るまでの過程で同じ単元案やワークシートを使って授業を行い、会員間で互いに情報共有しながら研鑽を深めることができています。

これら一連の過程において、会員の先生方から実際に「次は自分が発表したいです」といった心強い声もたくさん出ており、その点でも組織の活性化を感じています。

・東浩紀（2014）『弱いつながり～検索ワードを探す旅～』幻冬舎
引用・参考文献 ・木村翔太・松本大輔・宮坂雄吾・原祐一（2022）「“コト”を視点とした体育授業デザイン」『西九州大学子ども学部紀要』第13巻
・久保明広・田中孝・草津晃平・松本大輔（2021）「体育における「変革的形成的評価」への挑戦」『体育科教育』第7巻、大修館書店



学習カードの 活用から考える 授業改善



山形県

上山市立
南中学校教諭
本間 哲

変化の激しい時代に合わせ、子ども達の「生きる力」をさらに育てるために学習指導要領の改訂が行われ、令和3年度より全面实施となりました。評価観点が「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つに整理され、この整理を受けて各学校で研修を重ね、新しい学習指導要領に応じた授業に取り組まれていることと思います。本稿では、この指導と評価の一体化を企図した本校の実践を紹介します。

① 課題を明確にした授業実践

本校でも、指導と評価の一体化を中心に研修を行ってきました。その中で、単元計画や、授業の仕方などの見直しを行いながら、かつ日々の授業がよりよいものになるように保健体育科全員で授業改善を進めており、特に次の3点を再確認したところです。

- ① 評価観点が変わることを生徒にしっかり説明したほうがよい。
- ② それぞれの観点を具体的にどのような視点で見に行くのか。
- ③ その視点に基づいて生徒一人ひとりはどういう取り組み方をすることが望ましいのか。

この3点を踏まえて、本校保健体育科では、授業の際の評価観点について生徒に事前に知らせることにしました。それにより、当該時間に明示する課題、すなわち本時の目標に、生徒自ら積極的かつ主体的に迫ろうとするのではないかと考えました。

課題を明確にすることはどの教科でも当たり前のことです。授業のみならず、各種行事でも、部活動でも、その課題や目的がはっきりしていなければ、活動の意味が薄れてしまいます。とりわけ保健体育の授業では、課題がぼやけると評価はできないという思いがありました。あいまいな課題のピントを絞ることで、その授業の中で生徒が意識す



ることが明らかになり、より一層本時の課題に迫ることができると考えました。そして、その方途として、学習カードの見直しにたどり着きました。

② 学習カードの見直しと活用

体育授業では、運動量の確保がめざされます。しかし一方で、運動のさせっぱなしで保健体育科の目標に迫ることができないと意味がありません。そのようなジレンマの中で、効率よく振り返りや授業の記録を行い、さらに運動量を確保するために、学習カードを見直すことにしました。

これまでは運動領域ごとに個別の学習カードを作成して使用していましたが、年間共通の学習カードを用いることにしました。そうすることで、生徒が学習カードの記入や使い方も習熟し、マネジメント時間が減り、運動時間の確保につながりました（写真、図）。もちろん、補助プリントや補助資料など、その種目の特性に迫るようなものについては別に準備して配布など行っています。

図 学習カードへの記入例

個人学習カード (サッ カー)				年 組	番 氏 ()	NO 1
月日	課題・めあて	学習内容	記録・授業メモ ※ 何れも必ず 1つは行う	反省・感想	評価 ABC	検
		1. 知識、技能 2. 態度、感情、価値 3. 主体的に学ぶことへの意識				
9/10	きほん技能 カーニゴ	3	インサイドキック (1) 13分 15秒 ⑩ 足うちがめぐるまで、13分 15秒 キックをきつてき上げる	インサイドキックをきつてき上げる、きめること 足と地面の摩擦がきつて、13分 15秒できつてき上げる、きめること キックをきつてき上げる、きめること	B	○
9/13	1st をきつてきめる ポイントキックをきめる	2		1st をきつてきめる、きめること ポイントキックをきめる、きめること 1st をきつてきめる、きめること	A	○
9/15	キック カーニゴ	2	キックをきつてきめる、きめること 1st をきつてきめる、きめること キックをきつてきめる、きめること		B	○
9/16	相手にきつてきめる キックをきめる	2		相手にキックをきつてきめる、きめること キックをきつてきめる、きめること キックをきつてきめる、きめること	A	○
9/21	ゴールキーパー キックをきつてきめる	2	キックをきつてきめる、きめること 1st をきつてきめる、きめること キックをきつてきめる、きめること		B	○
9/23	1st をきつてきめる キックをきめる	3	1st をきつてきめる、きめること キックをきつてきめる、きめること キックをきつてきめる、きめること		B	○
9/24	単元のまとめ	3	1	今日、練習したことをきつてきめる、きめること キックをきつてきめる、きめること キックをきつてきめる、きめること	A	○

- ① 毎時間すべての欄を埋める必要はない。その日の評価観点に基づいて、例えば「知識・技能」の特に技能について評価を行いたい場合には、その技のポイントを自分なりに整理して「記録・授業メモ」の欄に記入する。
↓
- ② 思考力を問うような課題については、「記録・授業メモ」の欄に互いにアドバイスをを行った内容や、気づいたことなどを記入する。
↓
- ③ 「主体的に学びに向かう姿勢」について評価したいときには、その日の取り組み方や他の生徒と活動してみての振り返りを「反省・感想」欄に記入する。

学習カードへの記入の仕方は、図の通りです。

指導者が本時の課題を確認する際に、評価観点についても触れ、それに合わせて、本時の学習カードの記入についても確認を行うようにしています。必ずしも毎回学習カードに記入を求めることはありません。例えば、課題に応じて、知識・技能を評価観点にし、さらにその課題が2時間にわたって続くような展開の時には、次の時間に「反省・感想」をまとめて書くように指示を出すこともあります。そうすることでさらに運動時間の確保につとめています。

学習カードの回収は、単元の最後にまとめて行うのではなく、毎時間回収して即時評価し、次の時間に生徒に返します。その際、評価も◎や△などで記入し、視覚化するようにしています。生徒が自分自身でどこが足りなかったのかを考え、ポイントを明らかにすることで、次の授業での生徒の取り組みには変化が見られるようになりました。また、「今日の観点はどこですか？」というような問いが生徒自身から出るようになり、教師も観点を意識した授業ができるようになってきました。

③ 今後に向けて

本時のねらいを意識した授業ができるようになってきましたが、各時の課題が明確になる反面、どうしても1時間の授業が断片的になりがちのように感じています。

授業は、学習内容のまとまりを一定の時間数で編成した単元として計画して取り組んでいます。そのため、指導している教師は単元の目標を見据えて各時間の授業を展開しているわけですが、生徒自身もその単元のめざす姿を明確に描き、目指す姿に到達するために各時間いかに取り組んでいくのか、という意識を高めていく必要があります。今後は、一時間の授業のねらいを教えるだけでなく、単元はじめに単元の学習目標を学習カードに記載したり、評価計画も踏まえた授業計画を生徒に示したりしていくことができないかと考えているところです。

最後に、学習カードのデジタル化という側面も考える必要があります。いま学校はICTの活用が急速に進んでおり、ここ数年で大きな変化がありました。今後は、学習カードもデジタル化が進むことでしょう。そうすると、紙のカードとは異なり、カードの配布も返却もデジタル上で行うことができるようになるかと予想されます。

このように、方法は変化していくにせよ、生徒に「主体的に学びに向かう力」をつけさせるという点は変わりません。教育の不易と流行を見極めつつ、これからも様々な授業実践や他の先生方の授業を見ることで、自分自身も学び続けていきたいと思います。



「小さじ一杯の工夫」で授業が変わる！



子どもが変わる！



鎌倉女子大学講師 藤原昌太

写真や動画より実物！！

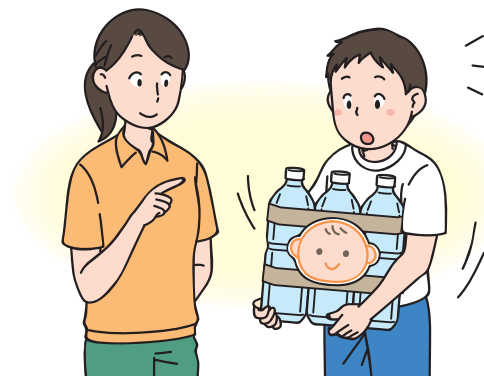
最近の教科書は、様々なイラストや写真の掲載があったり、さらにはデジタルデバイスの普及によって、簡単に動画コンテンツが視聴できたりと、視聴覚教材がとても充実しています。文章や口頭での説明より、写真や動画教材があれば子どもたちはより深い理解を伴った学習ができるでしょう。

しかし、やはり、実物に敵う教材はありません。先日とある小学校の授業を参観したところ、女性の卵巣の大きさを、実物の「うずらの卵」を使って説明していました。子どもたちからは「こんな小さいんだ！」「意外に大きい！」と様々な反応がありました。口頭での説明ではなく実物のうずらの卵を手にとることで、より実感を伴った理解ができたのではないのでしょうか。

映像で見るより、実物を見て、触って、感じられる方が子どもたちにとって有効な教材と言えます。例えば、赤ちゃんの重さは3000gであると説明する際には、ペットボトルなどを使って実際の重さを体感させるのが良いでしょ

う。教科書にはたばこの箱やお酒の缶、歯ブラシなどの写真やイラストがありますが、これらの実物を用意したり、それに見立てた教材を作成したりすると良いでしょう。

段ボールを使って、大きな車の模型を作成して、交通事故の防止の授業をした先生もいましたが、子どもたちは大喜びでした。まずは、身近なものを教材として用意してみることから始めてみてはいかがでしょうか。



専門誌のご案内



月刊 体育科教育

- 毎月14日発売 ● 定価913円(税込)
- B5判・80ページ

授業づくりを強力にサポート！ ぜひ一度読んでみてください!!

体育や保健をめぐるホットなテーマを特集形式で深掘してお伝えします。また、連載企画も充実しています。

日々の授業をアップデートしたい先生のための専門誌です。

最近の特集

体づくり運動の新しい授業デザイン／準備運動、どんなことをしてる？(2023年5月号)／ここまで見えてきた！2017年版要領下の授業実践／授業開きのおすすめ教材(4月号)／小規模校の体育を知らう・学ぼう！／見学者の対応、どうしてる？(3月号)／日本型インクルーシブ体育の構築を目指して(2月号)／「つくる」スポーツ実践ってどんな感じ？／新年のスタートにこの9冊！(1月号)／体育で実現する幼保小接続(2022年12月号)／男女共習から考える体育の未来(11月号)

体育と保健のひろば 4号

No.4(通算4号) 2023年5月15日発行

編集 大修館書店編集部

発行所 株式会社 大修館書店

〒113-8541 東京都文京区湯島2-1-1

TEL 03-3868-2298/FAX 03-3868-2645

出版情報 <https://www.taishukan.co.jp/>

印刷・製本 広研印刷株式会社

